

日本学術会議 経済学委員会 経済学分野の参照基準検討分科会（第9回）
議事要旨

日時 2014年2月12日（水）13:30-15:35

場所 日本学術会議5階 5-C(1) 会議室

出席者 岩本委員長、奥野副委員長、筒井委員、久本委員、広田委員、宮川委員
オブザーバー 北原和夫特任連携会員、樋口美雄経済学委員会委員長
（欠席 多和田幹事、池尾委員、岡崎委員、小西委員）

資料

資料1. 前回議事要旨（案）

資料2. 経済学分野の参照基準（分科会原案・第一次修正）

資料3. 経済学分野の参照基準における分科会原案からの第一次修正について

資料4. 経済学分野の参照基準（分科会原案・八木連携会員のコメント）

資料5. 岩本委員長提出資料

参考資料

資料1. 経済学分野の参照基準における教育体系の取り扱いについて

議題

1) 前回議事要旨（案）の確認

前回議事要旨の確認を行った。

2) 参照基準（案）の検討

岩本委員長から、資料2「経済学分野の参照基準（分科会原案・第一次修正）」の説明が以下のようにあった。

- ・ 前回分科会で決められた方針に基づき、委員でのメール審議により修正案の作成が進められた。今回分科会までの修正結果を「分科会原案・第一次修正」と呼ぶことにする。
- ・ 資料3「経済学分野の参照基準における分科会原案からの第一次修正について」にまとめられたように、修正作業を
 - 作業1. 原案に対する意見に応じ、原案の方針を変更する点を確認し、変更された方針に基づき修正する。
 - 作業2. 原案に対する意見に応じ、原案を修正する。
 - 作業3. 分科会での議論により、原案の改善を図る。の3つに分類する。
- ・ 作業1では、2つの方針を立てた。

方針1. 日本の各大学のカリキュラムへの介入になることを避け、多くの大学のカリキュラムの実態と異なる記述はしない。

方針2. 意見の相違があり、集約が難しい記述は弱めるか削除する。

- ・方針1のもとで、「12月4日の分科会決定により、教育体系への具体的な記述を削除する。」「具体的科目の学習する順番の記述はしない。」「特定分野の学習を重要と位置づける記述はしない。」に関する修正をおこなった。
- ・方針2のもとで、まず「国際的に共通したアプローチを『標準的アプローチ』と呼び、歴史的アプローチ、制度的アプローチと関係づける記述を避ける。」に関して、「非常に大きな個所の修正」として、下記3箇所を修正した。

1節「はじめに」(第5パラグラフ)

3(2)節「経済学の体系」

3(3)節「経済学の現状と発展の可能性」(第1～3パラグラフ)

また、「経済学の専門分野の例示、専門分野の内容の例示をしない。」「具体的科目の内容に対応する記述は避ける。」に関する修正をおこなった。

- ・作業2では、八木紀一郎連携会員が公開シンポジウムに出席された際に詳細な対案が出されていたので、資料4のように対案のポイントを20に整理して、第一次修正でどのように修正されたかを資料2にまとめてある。
- ・作業1で対応し切れていない諸学会からの意見・要望には今後の修正作業で対応する予定である。
- ・作業3では、岡崎委員、久本委員の提案を基に、委員のメールによる審議で修正を進めた。
- ・資料5は参照基準を策定する考え方を個人の立場でまとめた文書であり、ここまでの修正作業を反映して改訂をおこなった。

分科会原案・第一次修正の位置づけについて検討したが、第一次修正は分科会においてさらに修正する必要があるとの認識のもと、第一次修正を分科会原案以前の草稿と同じ位置づけとして、引き続き分科会で修正していくこととする。

分科会で進める修正についての諸学会からの意見の聴取方法について検討したが、結論は得ず、引き続き検討することにした。

3) 今後の進め方について

久本委員が修正提案を近日中にまとめることとした。

分科会案をまとめるスケジュールは、現時点では未定とする。

次回分科会は日程調整の上、2月末に開催する予定とする。